

出土した遺物



遺物を含む地層が現代の水田造成によって削平されていたため、出土品は多くはありませんが、能登半島で生産された珠洲焼の甕や片口鉢、中国産の青磁の破片などが見られます。

6区では、溝やそれに連なる「凹地状遺構」が検出されました。底面に無数の凹凸がある「凹地状遺構」は、地面を掘り下げて水田とした「掘込田」の可能性が高い遺構です。溝跡は河川から水田に水を送る用水路の機能を持っていたと考えられます。中世の掘立柱建物は2015年度の調査で1棟検出されたのみで、積極的に居住地として利用される場所ではなかったようです。水路が埋没したあとには、火葬土坑と呼ばれる炭や焼骨を含む方形の土坑が造られており、火葬場として利用されたと考えられます。このほかにも、用途不明の土坑や溝が多く検出されています。

